

大庄公民館

日本一りっぱな役場

大庄公民館（国登録有形文化財）は地区の公民館ですが、重厚な造りと雰囲気には驚きます。この建物は昭和12年建造、設計者は「村野藤吾」で、当時としては日本一りっぱな役場（大庄村役場）だったそうです。



村野藤吾は、日本建築家の巨匠で文化勲章受章。迎賓館本館（旧赤坂離宮）の改修も手がけました。代表作に「広島世界平和記念聖堂（重要文化財）」「宇部市渡辺翁記念会館（重文）」「新歌舞伎座」「都ホテル」「新高輪プリンスホテル」「そごう（心齋橋、有楽町）」などがあります。

なぜ 巨額を投じての建設が可能だったのか？

その背景には、昭和10年代の大庄村が、室戸台風災害復興事業の推進と同時に、臨海部の工業化につれて急速な都市化を果たし、数年間で人口が倍増を繰り返し、毎年、大幅な歳入超過を記録、「日本一の大村」と称されていた状況がありました。それでも、村役場の建設費は、当時の村の年間歳出額の半分に相当する16万円を要しました。巨額の投資に、当時の村の意気込みを感じます。

出典：フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』

大庄公民館が語る文化

地域の人が集い活動する場所、貴賓室に飾られた歴代村長さんの額、建物の壁に刻まれたレリーフが語る想い、建築当初にあった水路の流れに合わせて作られた1階の外壁のカーブなどなど・・・公民館には歴史と文化が存在します。そごう大阪店が取り壊されるなど、昭和初期の貴重な建物がどんどん減っていく状況の中、国登録有形文化財でもある大庄公民館は、地域の誇る文化的施設として、すばらしさを保ち続けています。



ずー らり並ぶ村長さん

貴賓室（学習室）：重厚な造りは、ほとんど 建築当時のままです。



塔屋：オリーブの木の透かし彫り
平和の象徴です。

壁面：ギリシャ神話上の動物 鷲の頭とライオンの胴を持つ「グリフィン」財宝を守る怪獣です。ほかにも色々な動植物のレリーフがあります。